

2020年12月22日

(報道発表資料)

入間市

東日本電信電話株式会社 埼玉西支店

総務省事業「多言語翻訳技術の高度化に関する研究開発」における

入間市での実証実験の実施について

東日本電信電話株式会社埼玉西支店（支店長：宅間由美子、以下「NTT 東日本」）は、総務省の情報通信技術の研究開発「多言語音声翻訳の高度化に関する研究開発」コンソーシアム*1 による「情報伝達」の実証実験を埼玉県入間市（市長：杉島 理一郎、以下「入間市」）で実施致しました。この実証実験では、多言語のコミュニケーション手段が求められる実用シーンを想定して当該研究開発により開発する自動同時通訳プラットフォーム技術を利用した情報伝達システムを用いて、多文化共生時代における在留外国人対応の一助として入間市の防災業務にどのように寄与するか確認し、自動同時通訳システムの改善や社会実装につなげていきます。

*1 自動『同時通訳』技術の研究開発コンソーシアムを設立～官民の総力を挙げて『同時通訳』の自動化を実現～

https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/20200828_01.html

※本件は、総務省の「ICT 重点技術の研究開発プロジェクト（JPMI00316）」における「多言語翻訳技術の高度化に関する研究開発」の委託を受けて実施する研究開発の計画に係るものです。

1. 実証実験の概要

在留外国人を含む人々が集う公共施設など、災害時に「同時通訳技術を用いた情報伝達システム」（以下、情報伝達システム）の活用が見込まれる入間市役所関連施設において、平常時から災害発生直後、さらには避難後に至るまでシームレスに利用可能な情報伝達システムの提供のあり方について同システムを用いた実証およびアンケートやヒアリングを通して確認します。

〔実証する項目〕

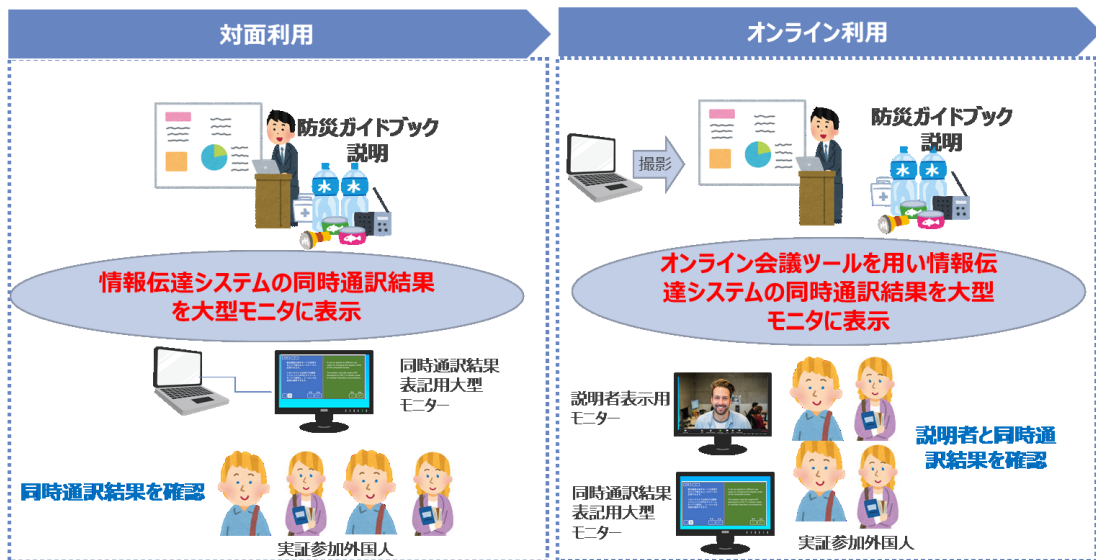
- ・入間市が住民向けに発行している「防災ガイドブック」を実証に参加する外国人に対し、情報伝達システムを用いて説明を行い内容が理解出来たかの確認を行う。
- ・情報伝達システムのユーザーインターフェース、ユーザーエクスペリエンスの確認を行う。
- ・様々な防災業務シーンにおける情報伝達システムの有用性の確認を行う。

〔実証日〕

2020年12月21日

〔実証イメージ〕

- ▶ 防災ガイドブックの内容を情報伝達システムを使って職員の方に説明いただき、同時通訳結果を参加した外国人が確認する。
- ▶ 情報伝達システムの利用が想定される、対面利用とオンライン利用双方の実証を行う。



2. 各者の役割

NTT 東日本：本実証実験の環境提供を行います。また、本実証実験で得られた知見を活かしながら、今後の情報伝達システムの高度化、社会実装を目指していきます。

入間市：入間市で利用している市民向け「防災マニュアル」の説明対応及び市役所内の実証実験スペースの提供を行います。

3. 今後の研究開発計画

今回の実証結果で得られた知見や課題、社会実装に必要な要件を今後の研究開発等にフィードバックしながら繰り返し改善を行い、実ニーズに即した自動同時通訳システムの社会実装につなげていくことにより、引き続き「言葉の壁」のない社会を目指して取り組んでまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

東日本電信電話株式会社 埼玉西支店 企画総務担当

担当：木村

電話：049-228-8305

《当日の様様》

